

---

# 君に

癒羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
君に

【Nコード】  
N3457M

【作者名】  
癒羅

【あらすじ】

余命僅かな少女が少年の問いに答えた

「私は……」

(前書き)

初投稿です

ありきたりなベタな話かも知れませんが

でも一生懸命考えたので

心優しい方のみどうぞ

僕は絶対に忘れない  
君に…会いに行くまで

\*

「私ね、もうすぐ死ぬんだって」

白い部屋に一人横になっている少女は言った

「え？うそだろ。なんで・・・」

「もうね、歩くのもつらいのよ？たまに目だつて見えないんだから  
そういつて笑う少女に僕は言つてしまった

「なんでそんなに笑つてんだよ！死ぬのが怖くないのか!？」

少女は困ったように笑つてから

「そりゃ怖いよ？」

「じゃあ、何で笑つてるんだよ。そう言おうとしたが少女は続けて

「だって怒つても泣いても何も変わらないんだよ？だったら最期まで笑っていたいでしょ？だから私は笑うの。」

「でも・・・っ」

反論しようとしたが少女は俺の口に指をあて  
「少なくとも、君の前では笑っていたんだ」  
とても綺麗に、しかしどこか寂しそうに見えるその笑顔に対して僕は  
「なんだよそれ・・・」  
と言って病室を出た

\*

数日後。

彼女は死んだ。

彼女が死んだあとに気付いた

僕は彼女が好きだったんだ。・・・と  
彼女の言葉の意味をなんでわかってなかったんだ。  
今ならその意味がわかるのに。  
なんであんな言葉しかいえなかったんだ  
なんで  
なんで

…だから僕は決めたんだ。  
君に会うそのときまで僕は彼女の言葉を忘れない。  
どんなにつらいときも笑っていようと。

僕は絶対に忘れない

君に…会いに行くまで

君に会いに行ったときに

伝えたい言葉があるから

(後書き)

ggd ggdでスミマセン>><

文才がなくて・・・・・・

一人でも多くの方にみてもらえますように

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3457m/>

---

君に

2010年10月16日22時37分発行